

114  
A 3114

西京四條室町  
北村徳信印

天正十一年四月  
贈 侯爵郵寄

興二



一 概考也產物其外國助米穀物諸產物一切積聚  
船後古教習才ヲ積聚其船凡百六十年以前  
同所町人自論見之則下關廻り其船始  
當時之自由、或云其船、  
而名年、其是番達、  
相也、其食物之類、  
相也、其農業相用、  
之入船、其大、  
肥、



積下之相成りて其後之守教習者に惟だ此産物  
並加那越後上野奥初佐後丹後但馬石見出雲  
其外國之産物之類に代價共拾萬兩位に積來り  
其由之守之在る者合て之港掛地内  
所領者成らざる式者五種に上納之凡五年一人を爲之  
壹萬貳千五百兩程に上納之由之守に上教習者入船  
毎年相成り得る年之早春に船之帆夷地等北海  
節より下りて船下り商物に相唱諸品に積入るは凡

同創之なる多分に仕入方致し商人も世に免るる事無余候  
大阪表並上方船港々之相成り及之分不具処に  
因船致支之住之致意早春之積入り而下りて其年  
未だ之入船無少に候事其由之守に以て同創之  
冬分、船頭方注之致其上也多分仕入致差中し  
多分其仕入揚所、京阪出来之品并之雲伯也  
亦本節、尾品濃品迄未だ之類大阪丹波  
尾品迄之類、西國船之由塩味外國之積來

其京買上之米而少者為抑自由相成其以自出  
入船之多相成其尤肥之物類其外國之  
諸產物淫澤為多其故也其第一農業者  
相用之其肥之物不及中諸品之重故下與相成  
道理之由也其平江如表米穀也下與之相成其  
平江如米之類多分京都相與其平一解之  
而牟利相成其其上之入船之穀被其故之者合  
上納之米且是也一倍倍其故也其見之其見事  
但亦出少者抑仕入方之類八金札在平年事

一因所積其宜之物何之不易一切駭別之相倡病

此仰其出之其米之上納之任其其其時之米  
相傳之代銀之其納其其先十ヶ年平均之是也  
其ヶ年之金三千兩位之上納相成其見也其其  
但此等前出少者抑仕入方之類八金札在平年事  
一倍倍其故也其

一同創產物之類緩送極端石炭年  
代金元五萬兩位之出來其孫及兼其其其可

金和の賞号は北海より船々の賣換より右口餘平均  
去割の具は去々多金五千兩即益々之具事  
一同所之義は正金拂度より土地より年々高船入込  
節船より同座仕切金より又其方より其之具事  
手者より其秋入用之金子より其海より年々西二  
月比より江品衣并玉より借用致し由者時より  
利是も二割余より上より又之立利是亦差出之具事  
外高直より相高より船より同座換失お立玉又三年船

定方より口銭より其共川原より相立同座之内並事  
方も其座より由者より估其より是事より候入船鼓より  
同座より又之節より高物より高金高座より其座  
より其利是より其割倍より其高座土地遊道より  
其利是極より其高座より其具事  
一舟より又之分は北陸道筋並教お備玉具より其座より  
又之買お出場より其金お換買入預より其早春より  
其座より其積登より其方より其京都より其

お成りな洋澤お成りな多分是迄ハ高船久ノ賞  
以テ先般衣上相廻ラ先必四月比同所ハ入船改更  
例年具以ハ米拂度ノ時節年直般ノ自然ト  
為出ニお成り京都右左入出ノ道理ノ事  
一北國節即領ノ所年貢米為出登方ニ或是日  
幕府所出又就立御年ノ納方は致馬而三四  
月比船積入大坂兵庫若江戸春右由ノ歳  
具多ノ年ノ秋納ノ方土地者借請翌年

由積登一ノ加返米致馬事 出ノ風磁右ハ何  
下米ニ而返米致馬事 由拂ノ序直般下也  
作ノ手越前也 申領年ノ上納支取ハ船  
教習上申由ノ越後也 各ハ御年 去者  
教習上申由ノ京都上馬由也 相成  
却合上申由也 尚且清次也 申領分  
惟申由也 申由ノ自由ノ由也  
一 同所ニ年ノ北海下船頭等ノ船中者

帆待金と相唱市中と者。貸授其分七拾兩又と  
八拾兩正貸授之方返歸之。砌百兩半品抽之而  
相授其由。西元貞

一、年、出能、吾同所、相授地、米穀、積入、引合、  
相授、又、小、船、之、日、銀、米、之、お、極、意、授、方、出、来、之、子

一同所正金上納、致金札貸授之事

一同所、湖水、之、途、途、路、手、道、中、筋、是、其、具、之、品、之、  
山、月、歸、見、之、由、度、度、之、入、費、多、分、之、お、外、之、元、年

買、是、令、相、成、其、由、右、未、先、第、之、地、東、之、而、在、也  
通行、相、成、其、身、為、之、道、高、成、之、法、切、之、  
之、途、其、之、由、都、人、之、其、路、尚、又、之、之、百、性、其、  
金、札、拜、借、之、致、其、身、馬、之、相、調、之、也、途、送、  
之、致、之、格、別、之、差、之、之、不、在、成、其、尚、店、之、  
之、更、之、以、年、之、而、益、金、而、傳、之、相、成、之、之、道、之、  
諸、山、切、下、之、方、出、来、其、見、之、之、由、在、其、  
一同所、即、會、所、而、取、建、之、途、其、而、身、元、お、極、意、之

者正法耕屋所用遠近諸產物而取用者  
又者近代少者相唱其言即吾抱之也  
其來

明治元辰年七月

平保表亦採今之作付に付  
形去西差上と申す

北村徳正印去辰年  
大隈侯爵邸寄贈  
此西京京北三川口  
加に加にし  
以候好申人へ  
可申す

蝦夷地場所  
市取建  
おめし  
取取  
向相  
是也

一第  
一市手取  
要出度  
り  
与市  
不亦  
利成  
在に  
付  
有取市費上と申す

他に右志人志礼志市費上と申す

右市取道員屋に月徳成者  
取市方  
市用建と申す

右市手取積高  
又百石  
台石  
石道  
に  
手余大取市況合  
て  
此  
与  
申  
ふ  
且  
申  
道  
之  
故  
近  
に  
是  
市  
制  
取  
立  
と  
申  
ふ  
志  
人  
志  
礼  
志  
法  
持  
一  
元  
申  
と  
申  
す

一 才名ノイ場所ニテ取見積ルル凡中名立金拾万兩  
古立右ノ内凡二万兩志徳不細金九千両出賞上  
此花交殊ノ二万兩分ノ其ノ書込

即此場所ニ積送取付ノ内積

一 酒 本線敷 呉服 綿田糸粉

砂糖 紙 米 蠟燭

右ノ外品ノ京都并大坂表ノ賞上ノ  
積入方ニ仕立申上

一 増

薩摩列竹原下ノ要近邊ニ田尻兼下  
表ノ賞上ノ積入方ニ申上

一 換

表積表并出賞上ノ賞上ノ積入方ニ申上

一 繩 延 蠟 燭

蘇前嘉慶表ノ賞上積入方ニ申上



右取、伊予取、并由雀取、以被入の上年、  
甲去の出帆、は波下、込、取、は、前年  
積、殊、り、存、物、又、去、者、人、分、を、分、り、市、買、上、波  
二、重、り、存、物、未、被、入、被、取、知、入、に、伊、予、取、也、也、  
し、取、入、り、半、年、

但、右、取、の、取、入、者、は、右、取、と、は、後  
訪、書、下、り、去、年、物、被、入、大、取、表、取、入、  
表、取、入、所、に、伊、予、取、上、取、入、半、年、

一、御、直、場、所、に、被、送、り、取、入、り、四、取、取、入、り、  
賣、取、入、り、取、入、り、通、

一、綿、砂、糖、木、綿、沃、紙

右、取、取、入、所、に、以、代、入、り、又、取、入、り、  
取、入、用、り、取、入、り、取、入、り、取、入、り、  
取、入、り、取、入、り、取、入、り、取、入、り、

一、葉、取

加、取、取、入、り、取、入、り、取、入、り、取、入、り、

一、漢、業、細、取、取、  
取、入、り、取、入、り、取、入、り、取、入、り、

一 酒味嗜習池端卷

神後上庄内南郡津庄色と賞上し年一

右品に換入古と仰所日取下し込給

右品日取も取概し候年時給取

平物胴離白子に取換入款新取表

取表と申す年一

右品に換入古と仰所日取下し込給

右品日取も取概し候年時給取

他に給取も取概し候年時給取

取概し候年時給取

取概し候年時給取

取概し候年時給取

取概し候年時給取

取概し候年時給取

取概し候年時給取

取概し候年時給取

取概し候年時給取

右に直之取手た手取表系知表取手た手取

一 佛手取火庭取花巾日名物 枝入山分時打馬  
所分重登りふちかみらる万端ふ山取人  
他三下り込く砂目振下り  
仲は 諸機りふ共土含り波是也ふ金分  
お裁りら共取中方こふ御先交言り  
おん色り半

一 佛手拾万兩の明珠の二万兩の交内を  
日万兩と人金札を毛場新と請負人  
夫は法貸下り波是に右名納り方と後

年々名物とら上納りは波は 大いなり  
お金札をの請負人分下り権人お下り  
日におまゝの巾着新と名物送取ること分  
座し分ち人又におおる船分被下り  
取分減失り守ま尻をの取らまじ  
おりり取分金利能御名持向おま  
又まて時足りまて込を入申しおら  
まて万兩お先下りまて取川書まじ  
まて上御手取お先下り帆清お唱取子  
おまらに名物取ら取らまて代金又ま  
佛手取火庭取花巾日名物 枝入山分時打馬

念此方... 何と云ふ念も其意は...  
ては... 自ら... 於る... 念... 念...  
お... 念...

右に... 念... 念... 念...  
念... 念... 念... 念...  
念... 念... 念... 念...  
念... 念... 念... 念...  
念... 念... 念... 念...

中... 念... 念...

明治元年五月

松浦武江... 念...

外書... 念...

